

あくせす news

第 260 号
2024 年 2 月 14 日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす

梅花の候、立春も過ぎ、暦の上では春を迎えています。
年明け頃から懸念していた新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行があり、感染者が増加しています。当院においても発熱患者の紹介入院が増えており、感染に十分注意しながら日々診療を行っています。
さて、先生方にはいつもあくせすをご利用いただき、ありがとうございます。
引き続き一層のご利用・ご紹介のほど、よろしくお願いいたします。



ご案内

呉市医師会病院 大腸肛門病センター

開設 10 周年記念キャンペーン！ 腸内フローラ検査

2014 年 7 月に開設した呉市医師会病院 大腸肛門病センターは、会員・登録医の先生方や地域の皆さまに支えられ、今年で 10 年目を迎えます。このたび 10 周年記念の第 1 弾として、2 月～3 月の期間「腸内フローラ検査」のキャンペーンを行っています。
ご興味のある患者さんやご家族、スタッフの方がおられましたらご案内のほど、よろしくお願いいたします。

※2024 年 3 月 31 日までにお申し込みいただいた方
キャンペーン価格!!

通常料金 ¥20,900 (税込) → **¥13,200 (税込)** ※保険適用外

■お問合せ先：地域医療福祉連携室あくせす ☎ (0823) 32-7576

報告

第 27 回 日本病態栄養学会年次学術集会

栄養科 木宮 茜

1 月 26 日 (金)～28 日 (日) に国立京都国際会館にて開催された第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会に参加し、「褥瘡と栄養管理」分野で演題発表をさせていただきました。栄養状態と褥瘡は関連が深く、必要栄養量不足は褥瘡を発生させる要因の一つになります。褥瘡患者の多くは低栄養であり、外科的治療や局所管理及び適切な栄養管理を行うことで創傷治癒を促進させます。

今回の演題では、褥瘡のステージに応じた栄養管理を行うことで多発部位に発生した褥瘡が治癒した症例について発表いたしました。本症例は、入院時、経口摂取量が非常に少ない患者でしたが、徐々に必要エネルギー量、たんぱく質を十分確保することができ、適切な栄養管理を実施した上で、補助食品を用いて特定の栄養素の補給を行ったことで褥瘡の治癒に繋がった症例となりました。今回のように補助食品の適切な活用により在院日数の短縮にも期待が出来ると思われます。

このたび同分野では 6 題の演題発表があり、他施設における発表を聴講することで、褥瘡患者における栄養管理の重要性について改めて学ぶ機会となりました。この経験を活かし、今後の業務に更に繋げていきたいと思ひます。

肉芽増殖期 (27 病日～)

仙骨、背骨、左肋骨、左足

DESIGN-R: 13点, 12点, 27点, 5点

体重 (kg): 40.6, 39.7, 40.4, 40.0, 41.8, 43.4, 44.4, 46.1

栄養管理の経過

目標 1430kcal

摂取エネルギー量 食事・6～7割程度 + 補助食品: 10割

1610kcal～1760kcal

エネルギー 1 缶へ増量, エネルギー 2 缶へ増量

感染・炎症期 → 肉芽増殖期 → 成熟期

演題発表したスライドの一部です

「原発性肝細胞癌の造影CT・MRI診断と人工知能応用の試み」

成田 圭吾 先生 (広島大学病院 放射線診断科 助教)

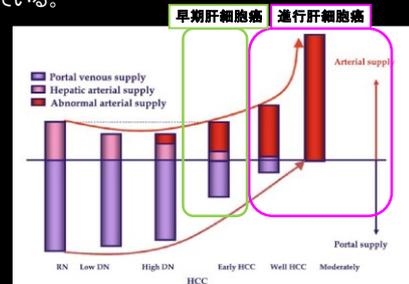


「原発性肝細胞癌の造影CT・MRI診断と人工知能応用の試み」というタイトルでお話をさせていただきました。

肝腫瘍の画像診断には腹部超音波検査やダイナミックCT・MRI、カテーテルを用いたCTHA・CTAPなどが用いられることが多いかと思いますが、われわれ放射線診断科医はダイナミックCT・MRIとCTHA・CTAPで診断に関わらせていただくことが多いかと思えます。原発性肝細胞癌の診断において腫瘍のサイズや数を把握するのはもちろんのこと、腫瘍の悪性度を評価することも非常に重要となってきます。原発性肝細胞癌は多段階発癌をすることが知られており、その過程で腫瘍内の血流支配が変化することが解明されています。具体的には悪性度が増すにつれて門脈血が減少し、動脈血が増加してきます。この血流情報を画像で正確に評価し、悪性度を推定することが画像診断の重要な役割の一つであると考えております。そして、血流を正確に評価するためには撮像された画像の品質を保つことが必要となってきます。CTでは撮像された画像を高品質にするために画像再構成法の工夫が行われてきました。

肝細胞癌の悪性度診断

肝細胞癌は多段階発癌をすることが知られており、その過程で結節内の血流支配が変化することが画像的・病理学的に解明されている。

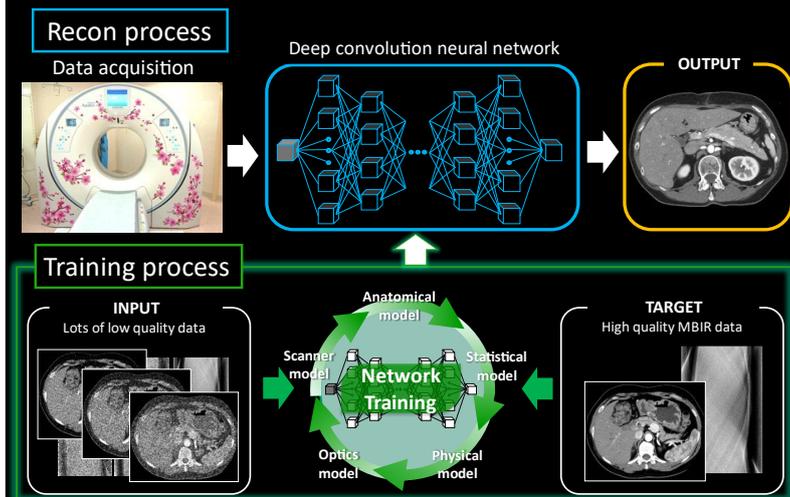


Matsui O, et al.; Abdominal Imaging 2011; 36:26472

昨今のCTの画像再構成法

- 旧 ↓ 新
- フィルタ逆投影法 (Filtered back projection: FBP)
 - 逐次近似応用再構成法 (Hybrid iterative reconstruction: Hybrid-IR)
 - モデルベース逐次近似再構成法 (Model-based iterative reconstruction: MBIR)
 - Deep learning reconstruction (DLR)

Deep learning reconstruction (DLR)



最近では画像再構成法に人工知能 (AI: artificial intelligence) の技術を応用して開発された新しい再構成法も出てきました。これにより今までよりも高品質な画像で診断ができるようになってきており、さらなる技術の進歩に伴い、原発性肝細胞癌のみならずその他の病変の診断能を向上させることができると考えています。

成田先生には水曜日と木曜日に画像診断に来ていただいています。引き続きCT・MRI検査のご紹介のほど、よろしくお願いいたします。



★1月1日～1月31日★

※届出日数(一般病床)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
103.3人	52.2%	19.8日	113人	104件



呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 あくせす

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 中塚 室長 中間 MSW 森下 MSW 菅原 MSW 巻幡
FAX (0823) 32-7507 事務 中野 事務 向井 事務 井上 事務 岩畔 事務 仁井谷